

MCR42S-JB ユーザーマニュアル



BRIEF DESCRIPTION

- ・すべての指示および説明に従ってください。
- ・最初に、以下の安全に関する説明および本マニュアルをお読みください
- ・本マニュアルを紛失しないでください
- ・この装置を雨の中や水の近くで使用しないでください。
- ・ヒーターの近くや高温環境内に本製品を設置しないでください。また、動作温度範囲外で使用しないでください。
- ・本製品を分解しないでください。資格のあるサービス技術者のみが操作することができます。
- ・正常に動作しない場合や液体や水分、何らかの落下により、本製品が破損した場合には点検が必要です。
- ・当社が認定または指定した付属品または交換用部品のみをご使用ください。
- ・本製品の清掃には液体を使用せず乾いた布のみをご使用ください
- ・本製品上の警告または危険に関するすべてのラベルにご注意ください。

警告:この装置は業務用です。とにかく、製造者は、装置のヘッドフォン出力が音圧レベルの85 dB(A)のレベルを超える可能性があることをユーザに警告し、これは聴覚にとって危険である可能性があります。ヘッドフォンを高出力レベルでまたは長時間使用しないでください。何らかの聴覚障害がある場合は、パワーを下げるか聴覚を停止してください。

バッテリー交換時は必ずすべての電池を交換してください。
新しい電池と古い電池を混在してレシーバーを操作しないでください。
MCR42が「自動的にオンになる」ように設定されている場合はバッテリーがなくなり、自動的にシャットダウン後に電池を交換してください。

主な機能

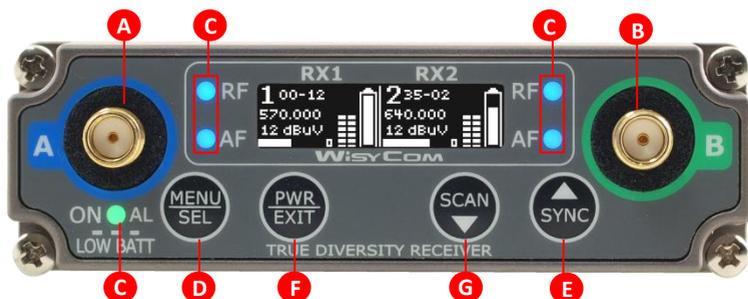
MCR42S-JBはブロードキャストやドラマ/フィルムプロダクション等、プロのアプリケーション用のデュアルツールダイバーシティを搭載した高性能のレシーバーです。

- ほとんどのカメラにスロットイン運用が可能
 - Ikegami/Panasoni(UNISLOT™)
 - Philips/Thomson/Grass Valley
 - Sony
 - Quad Pack & Six Packアクセサリによりスタンドアローン(単三電池にて駆動)での使用も可能
- RFにおける究極の性能と信頼性
- AES3のデジタルアウトプット
- 複数の受信コンバーターを搭載
- スキャン機能による最適な周波数とスケルチの自動検知
- 赤外線によるトランスミッターへの設定の伝送
- 追加の音声信号を含んだPTT(Push To Talk)機能
- RF環境の中での高い耐性

ユーザーガイド



NEW DISPLAY



フロントパネル

MCR42S-JBは、フロントパネルのボタンやLED、OLEDディスプレイで素早く簡単に設定、運用を行うことが可能です。フロントパネルは、次のセクションで機能的に分けられています。

A & B SMA アンテナ コネクター

C RGB色のLED: 2つのレシーバーは、ステータスを見やすく表示するためのLEDをセットで持ちます。

“ON LED” (新型ディスプレイ)

緑色	レシーバーが外部電源でON。	
淡い緑色	レシーバーがバッテリーでON。	
緑色で点滅	外部バッテリーの残量がLowの状態	
淡い緑色で点滅	バッテリーの残量がLowの状態	
赤色で点滅	トランスミッターのバッテリー電圧が低い。 バッテリー残量25%以下: ゆっくり点滅 12%以下: 素早く点滅	ON LEDが赤く点滅する時、ディスプレイがOFFであった場合、自動的にディスプレイがONになり、バッテリーのLow状態が改善されるまでアラートを表示しつづけます。

“ON LED” (旧型ディスプレイ)

	レシーバーがアクティブではない。
緑色	レシーバーがアクティブでバッテリーもしくは外部電源が正常。
赤色	レシーバーがアクティブで、バッテリーもしくは外部電源が低い。
赤色で点滅	トランスミッターのバッテリーが低い。 - バッテリー残量25%以下: ゆっくり点滅 12%以下: すばやく点滅。

“RF LED”

	レシーバーがアクティブではない。
赤色	両方のダイバーシティ・レシーバーでRFレベルがスケルチより低い。
緑色	RFレベルがスケルチより高く、レシーバーAがアクティブ (アンテナA)
青色	RFレベルがスケルチより高く、レシーバーBがアクティブ (アンテナB)

“AUDIO/AF LED”

赤色	RFスケルチもしくはトーンスケルチによるオーディオ・ミュート
緑色	オーディオがアクティブで、トーンスケルチ検知
青色	トーンスケルチ非検知 (もしくはキャリブレーショントーン有効)

D “MENU/SEL” BUTTON

メニューの機能にアクセスしたり、選択されたセットアップを確認したりします。

F “PWR/EXIT” BUTTON

レシーバーの電源ON/OFFするためにボタンを長押しします。ON/OFFステータスは不揮発性メモリへずっと記憶され、電源が入るとRx1、Rx2の片方または両方が自動的にONになります。メニュー表示中、このボタンを押してメニューを終了することができます。

E “Arrow up/sync” BUTTON

WISYCOMトランスミッターとの(ディスプレイの表示に従って)同期を始めるためにボタンを長押しします。同期開始する前に、WISYCOMトランスミッター上でIRDA(赤外線)が有効になっていなければなりません。メニュー表示中、このボタンを押して上に移動でき、前に選択していたアイテムへ戻ります。

G “Arrow down/scan” BUTTON

自動スキャンを開始するために、ボタンを長押しします。メニュー表示中、このボタンを押して下に移動でき、前に選択していたアイテムへ戻ります。

H “OLED Display”

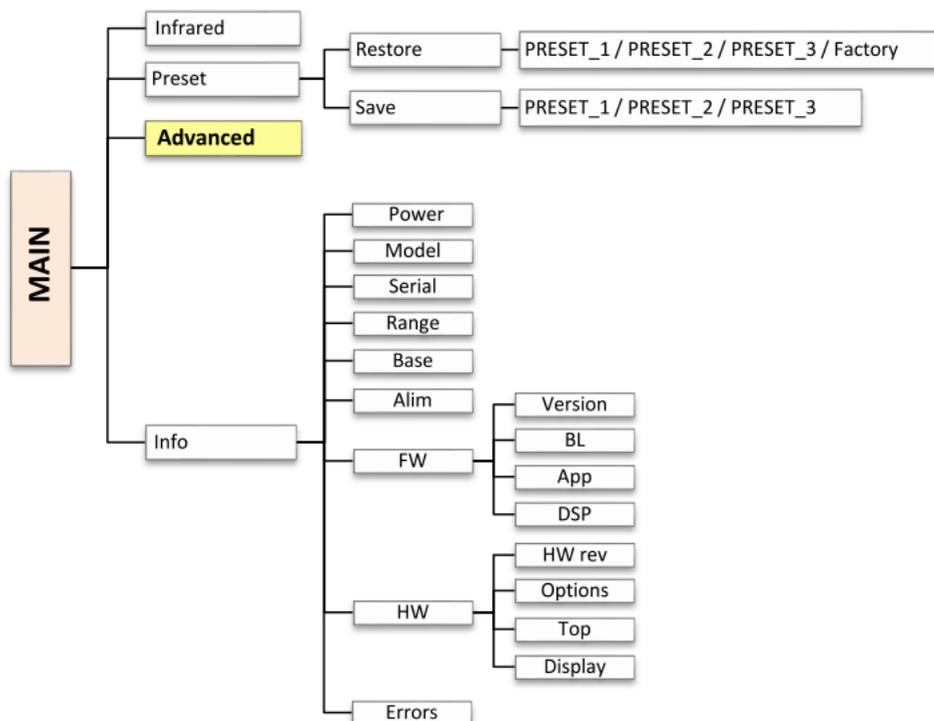
レシーバーはハイコントラストなディスプレイを持ちます。レシーバーがアクティブの時にボタンを押すと自動的にディスプレイが表示され、操作しないと自動的にディスプレイ表示が消えます。

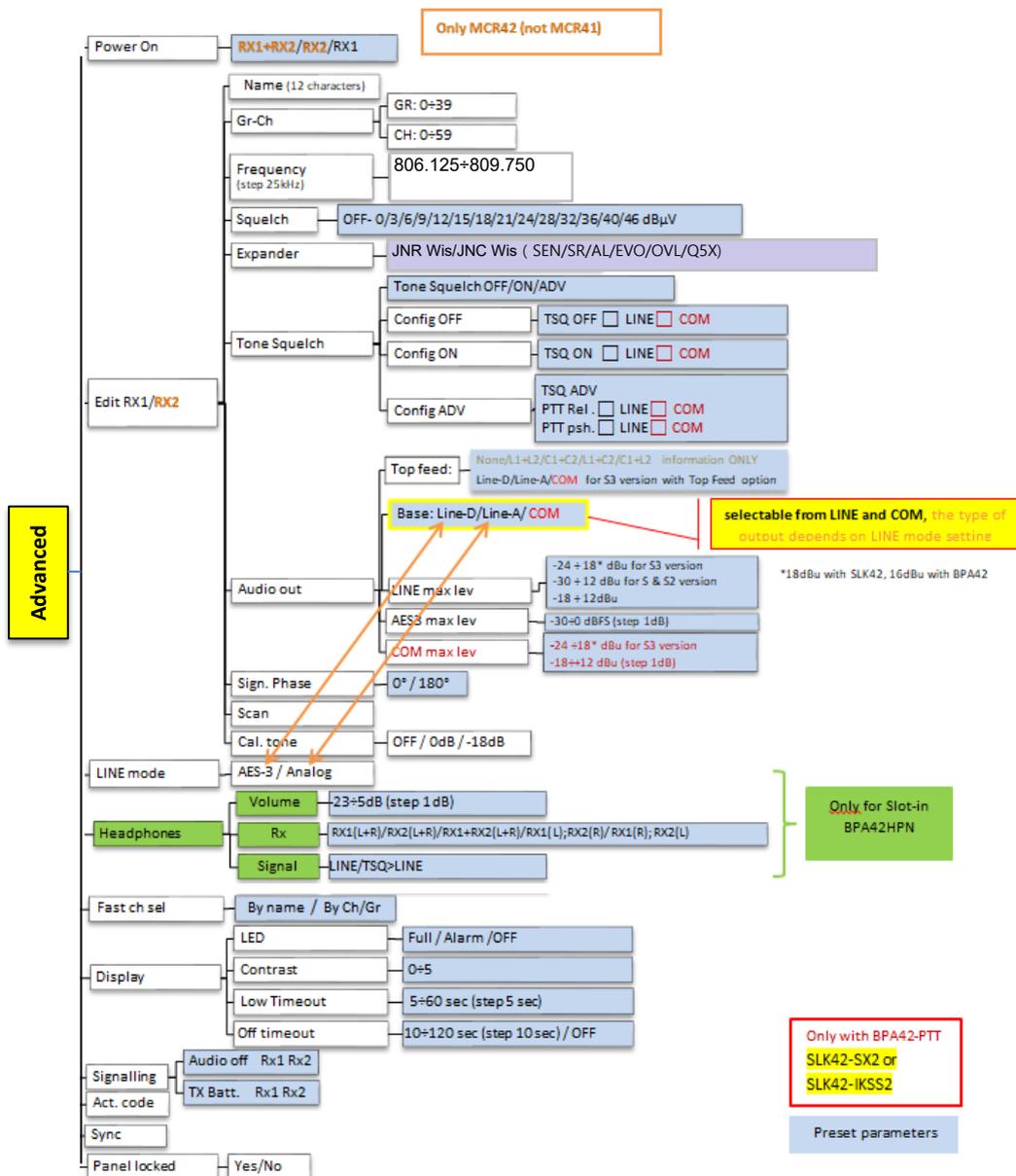
Displayメニュー

ナビゲーションボタンを使って、すばやく簡単にMCR42S-JBメニューを移動することができます。
SEL/EXITでメニュー階層に出入りできます。
up/downで同じ階層内のメニューを繰り返し表示します。
SEL/MENUボタンを”SAVED”が表示されるまで長押しすると、変更されたパラメータが保存されます。



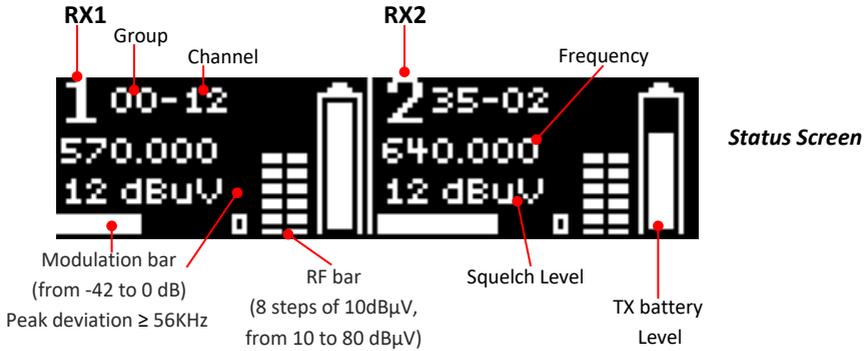
Treeメニュー ref. firmware version v3.21)





※Expanderの”SEN”以降のモードは有償オプションとなります

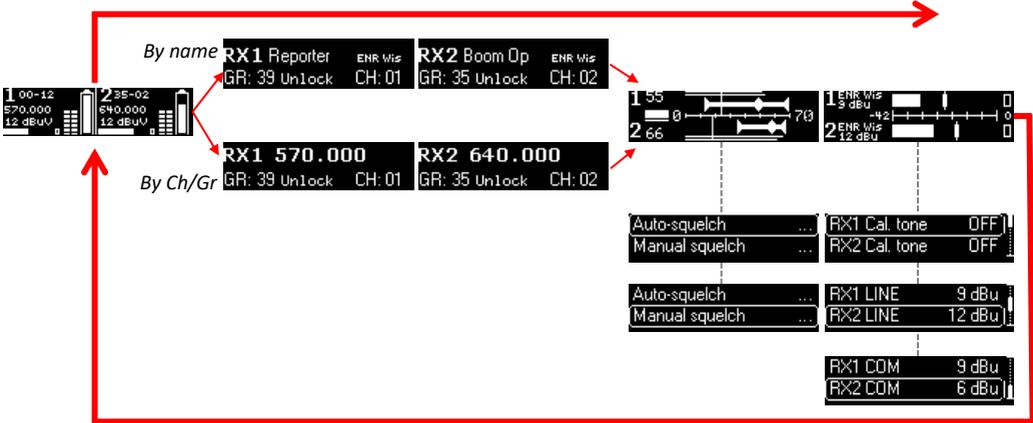
STATUS メニュー



クイックメニュー



ファームウェアv3.0から、“Arrow down/scan” か “Arrow up/sync” ボタンを押すと、周波数、グループ、チャンネル、エキスパンダー、RFレベル、スケルチ、オーディオレベルなど、レシーバーの主なパラメータのあるサーキュラーメニューの中に入ることができます。



RX1 570.000
GR: 39 Unlock CH: 01

RX1 Reporter ENR Wis
GR: 39 Unlock CH: 01

RX2 640.000
GR: 35 Unlock CH: 02

RX2 Boom Op ENR Wis
GR: 35 Unlock CH: 02

By name By Ch/Gr

メインメニューの“Fast ch sel”パラメータ上に何が設定されているかによりませんが、サーキュラーメニューの最初と2番目の画面で、これを見ることができます。

By Ch/Gr:RX、周波数、グループ(とネーム)とチャンネルか、
By name:RX、チャンネルのネーム、グループ(とネーム)、
エキスパンダーのチャンネル

レシーバー1(最初の画面)とレシーバー2(2番目の画面)の
SELボタンを押して、freq/GR/CHを変更できます。

V3.0以上のFWから、WisycomMCR4xManager v.1.0.1以上を
使ってネームとエキスパンダーを入力することができます。
(日本仕様は未対応です。)

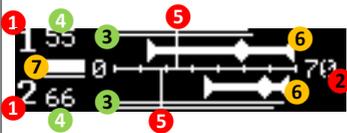
NAME	Freq	GR	CH	Channel	Reporter	Group	Exp	Chan											
GR 00	Center	2PT Center	470.000	482.000	480.000	488.000	492.000	496.000	500.000	504.000	508.000	512.000	516.000	520.000	524.000	528.000	532.000	536.000	540.000
GR 01	Reporter	2PT Reporter	470.000	476.000	480.000	484.000	488.000	492.000	496.000	500.000	504.000	508.000	512.000	516.000	520.000	524.000	528.000	532.000	536.000
GR 02	470.000	476.000	477.900	479.800	481.700	483.600	485.500	487.400	489.300	491.200	493.100	495.000	496.900	498.800	500.700	502.600	504.500	506.400	508.300
GR 03	480.000	486.000	487.900	489.800	491.700	493.600	495.500	497.400	499.300	501.200	503.100	505.000	506.900	508.800	510.700	512.600	514.500	516.400	518.300

備考: MCR42S-JBではチャンネルのネームとエキスパンダー
を変更することはできません。



3番目の画面には、2つのレシーバーのRFレベル(3, 4)が表示され
ます。また、約4分の時間枠の中で算出された最小、最大、平均値
(6, 7)が表示されます。

この画面は以下を表示します。



- レシーバーの数
- 10dB μ Vステップで0~70dB μ V の表示バー
- アンテナAとBのRFレベルを示す2つの表示バー
- 最大レベルをdB μ Vで表示する現在のアンテナのRFレベル
- スケルチレベル
- 記録された時間のRFレベルの最小・最大・平均を表示。
記録時間(約4分)が終了すると、RFレベルのアップデートが止ま
ります。(この機能はウォークテストに使用することができます。)
- RFレベルの記録時間を示すタイムバー。記録時間の終わりで消
える点滅する三角のアイコンはタイムバーの左側にあります。RFレ
ベルを記録している際は、左側の三角のアイコンが点滅しておりタイ
ムバーが右側に広がっていきます。記録終了で三角のアイコンが消
えます。

Auto-squelch ...
Manual squelch ...
Auto-squelch ...
Manual squelch ...

SELボタンを押して、RXごとにスケルチレベルを自動か手動に切り替
える事ができます。



4番目の画面は、メイン・オーディオ情報が表示されます。

この画面は以下を表示します。

- ① レシーバーの数
- ② エクスパンダー
- ③ 最大オーディオレベル
- ④ 6dBステップで-42dB～0dBまでの表示バー (0dB → ピークデビエーション ≥ 56KHz)
- ⑤ モジュレーションピークの表示でモジュレーションレベル(表示が0 dBに達すると、ディスプレイの右で四角が約1秒白色になってピーク発生を示します。)

SELボタンを押して、キャリアレーション・トーンの有効、それぞれの受信機のLINEオーディオ出力レベル、COMのオーディオ出力レベルを設定することができます。

- LINE max lev: -8 ± 12 dBu (only for HW rev ≥ 21)
 - MIC max lev: -30 ± 10 dBu (only for HW rev ≥ 21)
 - LINE max lev: -18 ± 12 dBu (only for HW rev < 21)
 - AES max lev: -30 ± 0 dBFS
 - COM max lev: -18 ± 12 dBu (only with BPA42-PTT)
- } Step 1dB

MAIN メニュー

Infrared:



赤外線を有効にして、MCR42S-JBを(UPK300のような)他のデバイスに接続することができます。

Preset:



プリセットメニューは次の2つのサブメニューを持ちます。

•Restore

13つの異なるプリセット(PRESET 1,2,3)とファクトリープリセット(WISYCOM Factoryの中でロードされるプリセット)をロードできます。

•Save

3つの異なるプリセット(PRESET 1,2,3)にセーブする事ができます。セーブされた各プリセットには6ページの図で青色で示されるすべてのユーザープリセットが含まれます。

Advanced:

	<p>その他のアドバンスド・パラメータにアクセスするにはAdvancedを選択します。</p>
--	---

Info

Infoメニューの中で次の情報が表示されます。:

Info	description	example	
Power:	現在のバッテリーのボルテージ		
Model:	レシーバーのモデル	MCR42 dual rx	
Serial:	シリアルナンバー(1文字のアルファベットと7桁の数字で構成)	Y0300002	
Range:	レシーバーの受信周波数レンジ	806-810	
Base:	現在搭載されているリアパネル: BPA42-PTT、BPA42-HPN、BPA42-BAG SLK42-SX SLK42-PH etc	BPA42-HPN	
Source:	運用している電源(Battry/External)	Batt	
FW:	Version:	ファームウェアのバージョン	v3.2.1
	BL:	ブートローダーのバージョン	v2.0.0
	App:	アプリケーションのバージョン	v2.60d
	DSP:	DSPのバージョン	v0.059r
HW:	HW rev:	ハードウェアのバージョン	30
	Options:	受信機の識別バンド(日本仕様のB帯はP)	P
	Top:	MCR42のTop Feedバージョンを搭載しているか否か	EL2/None
	Display	NEW DisplayかOLD Displayの識別(1:NEW Display、0:OLD Display)	1
Errors:	エラー回数: もし"0"出ない場合は"SEL"ボタンで"Errors"のメニューに入ってください。 それぞれのエラーの簡潔な説明とエラーコードが表示されます。 エラー内容の詳細は21ページのエラーリストをご参照ください。	0	

Advanceメニュー

Power on

	<p>レシーバー電源を有効にする： レシーバー1のみON (Rx1)、レシーバー2のみON(Rx2)、 両レシーバーON (Rx1+Rx2)をそれぞれ選択</p>
--	---

Edit RX (Edit RXのメニュー内容はRX1とRX2共に同じ内容となります)

	<p>RX1かRX2のサブメニューの選択すると、設定変更できます。</p>
--	---------------------------------------

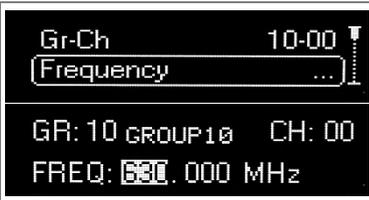
Edit RX: Name

	<p>Nameを選択すると、レシーバーの名前(12文字)を編集できます。 パラメーターネーム内で視認できる文字の数は使用される文字タイプ (大文字・小文字)で変わります。</p>
--	---

Edit RX: GR-Ch

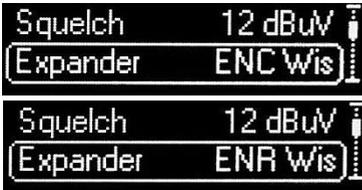
	<p>現在のグループとチャンネルを選択します。 グループネームとチャンネル周波数は右に表示されます。</p>
--	--

Edit RX: Frequency

	<p>特定のグループ／チャンネルがロックされていない場合、このメニュー で周波数の設定ができます。(25kHzステップ)</p>
--	--

Edit RX: Squelch

	<p>このメニューは、RFスケルチを無効(OFF) またはdBμVで任意のスケルチレベルに設定できます。(備考:0 dBμV は-107 dBmと同じです。)</p>
--	---

Edit RX: Expander

MCR42S-JBは10種の異なるタイプのエキスパンダーをサポートします。

JNR-Wisy: ノイズリダクションが最大に設計されています。

JNC-Wisy: 最高の音声忠実度に設計されています。
(楽器や特別なヴォーカル用途に使用してください。)

ENR-1,2/ENC-1,2: MCR42S-JBをカメラ

(Canon® C300, Canon® XF305, Sony® Pmw200, Sony® Pmw300, Sony® PmwF5, Sony® Fs7, Nikon® D600 or Nikon® D800, Canon® SD mark3 など)と一緒に使用する際、ダイナミックを減らした信号を扱います。

このタイプのエキスパンションは信号へ人工的な加工音なくノイズの少ない信号を扱うことができます。
(ENR/ENCスタンダードと比べて)オーディオ品質を損なわずにS/N比が15dB向上します。

これらのエキスパンダーを使うには、トランスミッター上のENRとレシーバー上のENR 1.2を設定するか、トランスミッターのENCとレシーバーのENC 1.2を設定する必要があります。ENR-1.2はノイズへ、ENC-1.2は高音質へ適正化されています。

SEN: SENNHEISER HyDin+用

SR: SHURE UHF-R用

AL: Audio Limited用(日本仕様の流通はありません)

EVO: SENNHEISER HDX用

OVL: OVERLINEsystem用(日本仕様の流通はありません)

DSP: Q5X Q5X用(日本仕様の流通はありません)

備考:

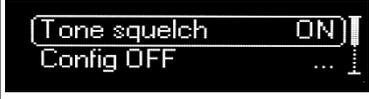
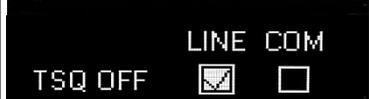
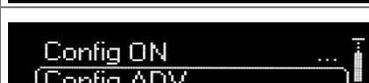
レシーバーのエキスパンダーはトランスミッターと同じ設定にしてください。

MCR42S-JBコアは優れた音質と柔軟性のあるデジタルオーディオプロセッサで、市場のほとんどのエキスパンダーをエミュレートできます。

このメニューでオーディオ・エキスパンディング・チップセット・エミュレーションを設定できます。ENRはPhilips™ SA572と

WISYCOMトランスミッターのPTTデジタルデータをエミュレートします。他の設定はリクエストに応じてロードすることができます。

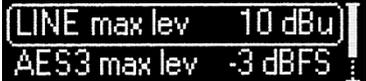
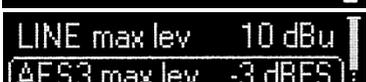
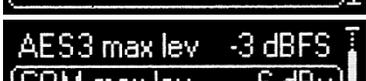
Edit RX: Tone Squelch

   	<p>MCR42S-JBは、WISYCOMトランスミッター(MTH400/MTP40など)で生成されたデジタルトーンスケルチを検知することができます。</p> <p>Tone squelch ON: トーンスケルチが有効の時、正しいキャリアが検知されない限りオーディオはミュートされます。トーンスケルチによって、デジタルテレビのキャリア(DVB-T)が存在するような場所でさえ、頑健性と受信範囲の拡大を低いRFスケルチで実現します。</p> <p>Tone squelch ADVanced: トーンスケルチがアドバンスド・モードの時、レシーバーもPTTデータ(push to talk)を処理します。トランスミッター側でボタンが押された時、オーディオ出力コマンドが有効になります。</p>
  	<p>トーンスケルチがOFFの時、LINEとCOMのどちらに出力するか設定することができます。</p> <p>COMコラムはスタンドアローンソケットBPA42-PTTだけに存在します。</p>
 	<p>トーンスケルチがONの時、LINEとCOMのどちらに出力するか設定することができます。</p> <p>COMコラムはスタンドアローンソケットBPA42-PTTだけに存在します。</p>
 	<p>トーンスケルチがアドバンスド・モードの時、LINEとCOMへ出力する組み合わせと、PTT rel.(リリース)とPTT psh(プッシュ)の組み合わせで、複雑なオーディオ・マトリクスを設定できます。通常、Lineは常にチェックされ、Com(PTT)は、リターンチャンネル(インターコム)用に"PTT push"がチェックされます。</p> <p>COMコラムはスタンドアローンソケットBPA42-PTTだけに存在します。</p>

備考: スケルチとトーンスケルチで、オーディオ出力は次のときアクティブです。

	Squelch OFF	Squelch = 0,3,6,... dB μ V
Tone squelch OFF	常時オーディオはアクティブ	RFレベルが設定したスケルチ以上の場合
Tone squelch ON	トーンスケルチが検知された場合はアクティブ	RFレベルが設定したスケルチ以上でトーンスケルチを検知した場合

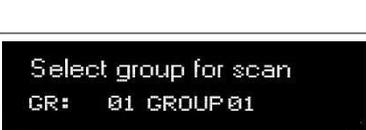
Edit RX: Audio Out

	<p>Audio Outで、オーディオ出力を設定できます。</p>
	<p>LINE: -24dB~+16dB(BPA42シリーズ搭載時) -24dB~+18dB(BPA42-IKSS2等D-Sub アウトプッタクセサリーの搭載時)</p>
	<p>AES3:-30dBFS~0dBFS</p>
	<p>COM:-18dBu~+12dBu</p>
	<p>※現在のファームウェアではMICレベルの設定はありません。</p>

Edit RX: Sig. Phase

	<p>オーディオ信号の位相を 0° か180° に変更します。</p>
--	-------------------------------------

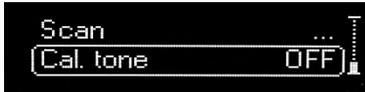
Edit RX: Scan

	<p>任意の周波数グループをスキャンすることができます。 この機能はディスプレイパネルの“SCAN”ボタンの長押しでも呼び出すことができます。“SCAN”ボタン長押しで呼び出したメニューだと、スキャンする受信機のチャンネル(RX 1もしくはRX 2)を選択しスキャン後そのままチャンネル設定ができます。</p>
	<p>スキャンオペレーションを始めると、スキャンするグループを選択する画面になります。</p>
	<p>すべてのトランスミッターをOFFにするように画面に表示されます。</p>
	<p>上記画面で“SEL”を押すとスキャンが開始されます。</p>
	<p>数秒後、スキャン結果が画面に表示されます。</p>



スキャン結果は電波状態の良い順番でチャンネルが表示されます。
(その後“SEL”ボタンを長押ししてそのチャンネルが設定されます。)

Edit RX: Cal. tone



Cal. Toneを有効にすると、レシーバーの出力からキャリブレーション・トーンが送られ、RXのオーディオLEDが青色になります。(Cal. Toneをオフにするには、メニューのAdvanced > RX でEXITを押します。)

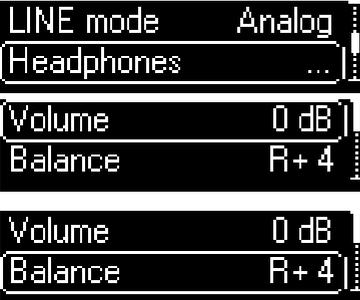
オーディオレベルは-18dB、0dBのどちらかを選択できます。
0dBでのトーン信号は、出力最大レベルで1kHzのトーンを生成します。
(Audio outメニューで設定されるMIC/LINE最大レベルかCOM最大レベルに依存します。)
これはピーク・デビエーション(56kHz)のリファレンスを務めます。

LINE mode:



LINEモードは、出力タイプをanalogとAES3(デジタル)の切替です。
LINEモードがAES3に設定されると、デジタル出力(Rx1+Rx2)はRx1の出力コネクタに出力されます。

Headphones (スタンドアロンアダプター“BPA42HPN”の場合のみ)

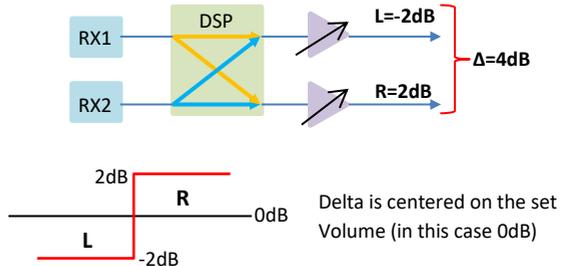


メニューの中をup/downで移動し、SELで任意の設定オプションを決定してください。

Volume: 出力レベルを最大(+6dB)から最小(-24dB)に1dBステップで調整できます。

Balance: このパラメータでヘッドフォン出力の左右バランスのデルタ値を(L/R間で12dBまで)調整できます。例えば、Volumeが0dBでBalanceがR+4なら、Lが-2dBでRが+2dBとなります。

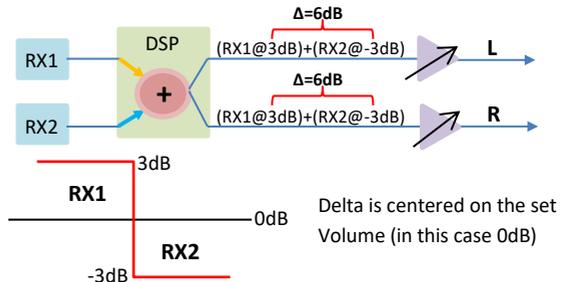
Example: if Volume=0dB & Balance= R+4



RX mix: 例えば、RX selのパラメータが $Rx1+Rx2(L+R)$ の時、RX1とRX2間の音量のバランスのデルタ値をRX1/RX2間で12dBまで調整できます。

例えば、Volumeが0dBで、Rx signalが $Rx1+Rx2(L+R)$ で、RX mixが $Rx1+6$ の時、RX1は+3dBでRX2は-3dBとなります。

Example: if Volume=0dB, RX sel= $Rx1+Rx2(L+R)$ & RX mix= $Rx1+6$



RX sel: ステレオジャックの左右チャンネルは、RX1,RX2それぞれか、RX1+RX2に設定することができます。

Signal: LINEに設定すると、LINE出力の信号と同じものがヘッドフォンに出力されます。TSQ>LINEに設定すると、トーンスケルチが有効(Tone Squelch ONかADV)でトーンスケルチ信号が検知されていなくてもヘッドフォンで聴くことができます。

Fast ch sel:

	<p>このメニューは、Quick Menuの最初の2つの画面に何を表示するか設定します。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> - By Ch/Gr = 周波数、グループ(とプロパティ)、チャンネル - By name = チャンネルネーム、グループ(とプロパティ)、エキスパンダー <p>レシーバー1(最初の画面)とレシーバー2(2番目の画面)の情報を設定することができます。</p>

Display:

	<p>このメニューでは、フロントLEDをオンにする、コントラスト、ディスプレイのタイムアウトのモードを設定できます。</p>
	<p>LEDモードは以下のように設定できます。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ➤ Full: ON、RF、AFすべてのLEDが点灯し作動します ➤ Alarm: ON、RF、AFのLEDが消灯し警告時のみ点灯して作動します。 ➤ OFF: すべてのLEDは常にOFFです。
	<p>Low timeoutは、設定されたコントラストの明るさで表示しつづけるまでの時間を示します。(その後、ディスプレイのコントラストは暗くなり、ディスプレイはStatus screenを表示します。)</p>
	<p>Off timeoutは、ディスプレイが表示しつづけるまでの時間を示します。(その後、ディスプレイは自動的にオフになります。)もしOff timeoutをOFFに設定すると、ディスプレイが自動的に消えることはありません。</p>

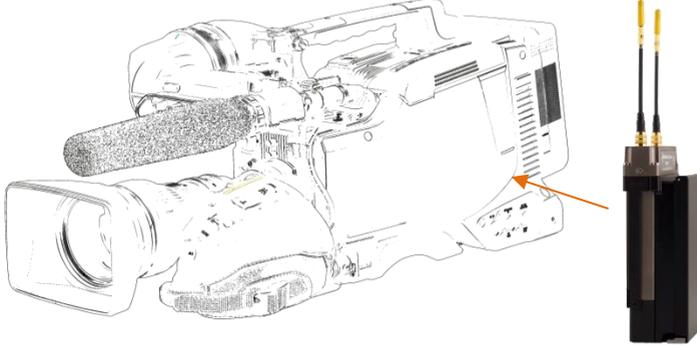
Sync:

	<p>MCR42S-JBは“Sync”機能によりトランスミッターと周波数を同期させることができます。</p>
	<p>レシーバーの同期したいチャンネルを選択しトランスミッターと赤外線同期させます。</p>
	<p>終了後、周波数は同期されています。 (同期が完了すると“All Done!”と表示されます。)</p>

スタンドアロンマウントでの運用時の接続方法

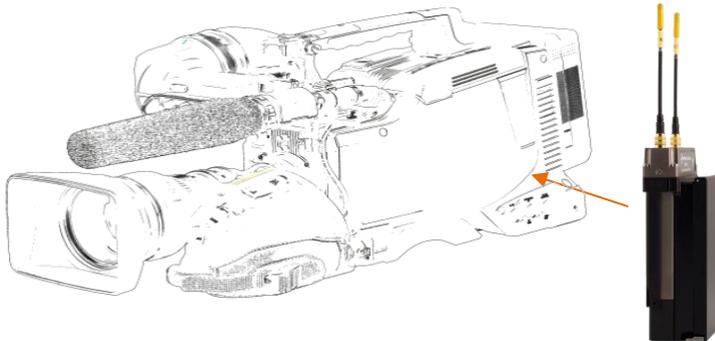
MCR42S-JBの音声出力がデジタルに設定されている場合Line1 Outputに音声信号1&2が構成されます

- BPA42HPN搭載時:Line Out1とカメラのデジタルInputをTA3F-XLR3M変換ケーブルで接続してください
- BPA42-PTT搭載時:TA5F-2xXLR3M変換ケーブル”CAM50-3”でCOM1&2 OutputとカメラのオーディオInput/インターカムInputと接続してください
- バッテリーパックを使用しない場合は電源ケーブル”CDC34”でカメラより受電することができます。



MCR42S-JBの音声出力がアナログに設定されている場合、音声信号、Push to Talk1と2はLine Out1、2それぞれに構成されます

- BPA42HPN搭載時:Line Out1とカメラのアナログInput1、Line Out2とカメラのアナログInput2をTA3F-XLR3M変換ケーブルで接続してください
- BPA42-PTT搭載時:TA5F-2xXLR3M変換ケーブル”CAM50-3”でCOM1&2 OutputとカメラのオーディオInput/インターカムInputと接続してください
- バッテリーパックを使用しない場合は電源ケーブル”CDC34”でカメラより受電することができます。



技術仕様

- ・周波数レンジ [1] : 806.125-809.750MHz
- ・スイッチャブルチャンネル : 30チャンネル、8グループ
- ・周波数 : 25KHz最小ステップのマイクロプロセッサ制御周波数シンセサイザー回路
- ・周波数エラー : $< \pm 2.5\text{ppm}$, in the rated temperature range.
- ・動作温度 : $-10 \sim +55^\circ\text{C}$
- ・変調 : FM、ディエンファシス
- ・周波数偏位 : $\pm 35\text{KHz}$
- ・アンテナ入力 : 50ohm SMA Type (SWR $<1:2$ typ. 1:1:4)
- ・感度 : $\Rightarrow 2\mu\text{V}$ (6dB μV), for SND/N $>58\text{dB}$
 $\Rightarrow 5\mu\text{V}$ (14dB μV), for SVD/N $>98\text{dB}$
 スイッチングウィンドウ全体の中で
- ・アンプリチュードレスポンス : $< 0.5\text{dB}$ (for RF input signal: 6dB $\mu\text{V} \div 100\text{dB} \mu\text{V}$)
- ・Co-channel リジェクション : $> 2.5\text{dB}$.
- ・IF イメージリジェクション : $> 90\text{dB}$.
- ・Intermod. : $> 76\text{dB}$.
- ・IIP3 : $+10\text{dBm}$ typical
- ・スプリアスエミッション : $< 2\text{nW}$ (Typical=0.1pW)
- ・ノイズリダクションシステム : JNR/JNR1.2 (Wiscom Extended-NR)ノイズを最適化
 JNC/JNC1.2 (Wiscom Exyended-NC) 音声を最適化
 →オプションになりますがその他ほとんどのシステムに互換性を持ちます。
- ・AFバンドワイズ : 30Hz-15KHz
- ・ひずみ率 : 0.1% (Typical)
- ・S/N比 : 110dB (アナログ)
 140dB (デジタル)
- ・POWER LEDs : Rx1 & Rx2用マルチカラーLEDは電源の状態を表示します
 (旧ディスプレイ)
 -緑: 外部バッテリーで"ON"の状態
 -赤: 外部バッテリーがEmptyの状態

 LEDの点滅でトランスミッターのバッテリーの状態を表示します
 -ゆっくり点滅: バッテリー残量25%以下
 -すばやく点滅: バッテリー残量12%以下

- ・POWER LEDs (新ディスプレイ) : 1つのマルチカラーLEDでRx1 & Rx2の電源の状態を表示します

 - 緑点灯: 外部バッテリーで"ON"の状態
 - 薄緑: バッテリーで"ON"の状態
 - 緑点滅: 外部バッテリー残量が"LOW"の状態
 - 薄緑点滅: バッテリー残量が"LOW"の状態

赤点滅でトランスミッターのバッテリーの状態を表示します

 - ゆっくり点滅: バッテリー残量25%以下
 - 素早く点滅: バッテリー残量12%以下

※LEDが赤点滅になった際、ディスプレイが消えている場合は自動的に表示されバッテリーが交換されるまでアラートは表示され続けます。

- ・RF LEDs : Rx1 & Rx2用のマルチカラーLEDはRFレベルの状態を表示します

 - 赤: 両レシーバーのRFレベルが設定したスケルチ以下の状態
 - 緑: 設定したスケルチ以上のRFレベルの状態でアンテナAがアクティブの状態
 - 青: 設定したスケルチ以上のRFレベルの状態でアンテナBがアクティブの状態
 - 黄: 設定したスケルチ以上のRFレベルの状態で両方のアンテナがアクティブの状態

- ・AUDIO LEDs : Rx1 & Rx2用のマルチカラーLEDはAFの状態を表示します

 - 赤: スケルチ(もしくはトーンスケルチがアクティブ状態)が要因で音声ミュートの場合
 - 緑: AFシグナルがアクティブでトーンスケルチもアクティブの状態
 - 青: AFシグナルがアクティブでトーンスケルチがアクティブでない状態

- ・駆動時間 : バッテリーパック"BCA42"使用時(アルカリ電池5本) 約5時間

- ・重量 : 183g(本体のみ)
422g(バッテリーパック"BCA42"、スタンドアローン"BPA42HPN"付属)

ERROR LIST

レシーバーにエラーが起きた場合いくつかのエラータイプがあります

- A. ディスプレイにメッセージが表示されるエラー
- B. "Info"メニューの"Errors"の回数が増えるエラー
- C. "Info"メニューのエラーリストのエラータイプとエラーコードが挿入されるエラー

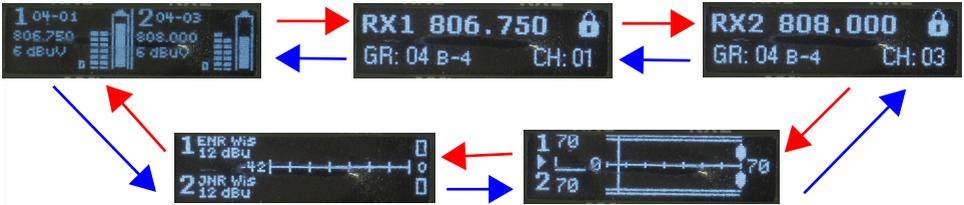
エラーが解消された場合、エラーメッセージはディスプレイから消えます
しかし、のエラー情報(エラーコードやエラーの説明)は"Info"メニューのエラーリストにて確認できます。
(いくつかのエラーは下記の表を参照してください。)

注:レシーバーのエラー情報をリセット後は確認は出来なくなります。

Errors	Message on display (A)	Error type (C)	Code (C)
Low voltage level	Battery Low / Ext pwr Low		
TX of RX1 Battery Low	TX1 Pwr Low		
TX of RX2 Battery Low	TX2 Pwr Low		
Rear panel error	BASE: Error		
Device ID copy1 invalid, Memory recovered		MB mem copy 1	87
Device ID copy2 invalid Memory recovered		MB mem copy 2	88
RX1 copy1 invalid		RX1 mem copy 1	89
RX1 copy2 invalid		RX1 mem copy 2	8A
RX2 copy1 invalid		RX2 mem copy 1	89
RX2 copy2 invalid		RX2 mem copy 2	8A
PLL unlocked	-	PLL unlocked	84
CH mem header	-	CH mem header	85
Param mem header	-	Param mem header	86

クイックメニュー詳細手順

各チャンネルの詳細が表示されている画面で<▲/SYNC>もしくは<▼/SCAN>を押すとレシーバー1、レシーバー2の設定されている周波数、RFの受信状態、AFの入力状況の確認画面が表示されます。<▲/SYNC>を押すと赤い矢印の順、<▼/SCAN>を押すと青い矢印の順に表示されます



各画面で”SEL”(SELECT)を押すと関連のメニューにアクセスできます。

- ・各レシーバーの周波数画面：周波数の設定



左の画面で”SEL”を押すと表示されているレシーバーの周波数の設定メニューに入ります。

”SEL”を押してEDITモードにしてグループ(GR)及びチャンネル(CH)を設定、変更します。

SELを押して”GR”、”CH”を選択し <▲/SYNC>もしくは<▼/SCAN>で設定したい数字を選択して、SELを長押しすれば設定完了です。(RX2の設定方法はRX1と同様です。)



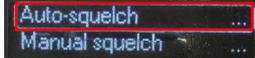
- ・RF受信状態の画面：スケルチの設定



左の画面で”SEL”を押すとスケルチの設定メニューに入ります。

Auto-squelchとManual squelchが表示されます。

Auto-squelch: 自動的に現場の電波状況にあったスケルチを算定します
Manual squelch: 手動でスケルチを設定します。



設定方法

Auto-squelch:

Auto-squelchに合わせて”SEL”を押してRX1、RX2のどちらのスケルチを計算するか選択してください。

すべての送信機の電源がOFFになっていることを確認しSELを押します。スケルチの算定がスタートし、算定された値が表示されます。

算定された値でよければSELを長押しして設定完了です。

算定された値より変更したい場合は<▲/SYNC>もしくは<▼/SCAN>で設定したい値を選択して、SELを長押しすれば設定完了です。(RX2の設定方法はRX1と同様です。)

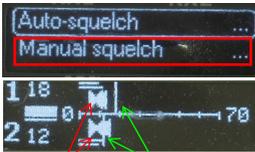


Manual squelch:

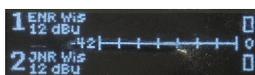
Manual squelchに合わせて”SEL”を押してください。

現在設定されているスケルチと現場のプロアノイズが表示されますのでプロアノイズより高い値に設定してSELを長押しすれば設定完了です。

左画面では、RX1はノイズフロアの値よりスケルチの値が高い設定
RX2はスケルチの値よりノイズフロアの値が高いため安定運用ができない設定



プロアノイズ スケルチ



左の画面で”SEL”を押すとキャリブレーショントーンとオーディオ出力の設定メニューに入ります。

RX1/RX2Cal.tone: キャリブレーショントーンのON/OFF

RX1/RX2Line-A(Line-D): オーディオ出力ゲイン

※アウトプットソースがアナログ、デジタルによりAもしくはDが表示されます





WISYCOM™

VOX INFRAGILIS

Via Spin 156 • I-36060 Romano d'Ezzelino • Italy
Tel. +39 -0424 -382605 • Fax +39 - 0424 - 382733
www.wisycom.com • e-mail: sales@wisycom.com

